

平成25年度JSCA千葉&千葉県鐵骨工業会 勉強会

有限会社 市原建築構造設計事務所
市原 嗣久



記念講演会

千葉県鐵骨工業会との勉強会が、平成25年9月6日にバーデ一ホテル会議室にて行われました。



講演終了後、午後5時30分からはJSCA本部金箱温春会長を始め、千葉県県土整備部、千葉市役所都市局建築部、近隣行政関係各課、関連団体役員、協力会員、会員、所員等、総勢130名余りの出席をいただき新年会が開催された。

向後副代表司会進行のもと、園部代表は新年のご挨拶と共にJSCA千葉の本年重点課題として1) 社会的ニーズへの対応2) 建築設計へのかかわりと対応3) 技術力向上と自己研鑽4) 若手技術者への情報伝承5) 行政へ協力と建築設計6) 団体との協力を挙げました。

次に、金箱本部長は祝辞の中で構造技術者としての役割と一般社会との会話並びに支部サテライトの活性化を話題とされました。千葉県県土整備部宮下智互次長は県内における耐震改修の現状とインフラ、建築再構を話題とされました。千葉市都市局建築部建築指導課時田考哲課長は千葉駅整備及び幕張新都心イオン計画を話題とされました。

千葉県建築士事務所協会宮下登久子副会長の乾杯の発声のもと祝宴へと移りました。

祝宴では、普段からお世話になっている協力会員のPRに続き、齋藤美佐男前代表率いるJSCA千葉会員によるTAKE 5と役員の真崎雄一率いるハンク・マサ&吉崎さとし2組の演奏が祝宴を大いに盛り上げあつという間に時が過ぎ、市原副代表の三本締めで終演となりました。

(榊原裕繁)



懇親会



千葉職業能力開発短大がJSCA千葉と共同研究

めっき部材の接合面処理方法
サンドブラスト処理の有効性を確認

千葉職業能力開発短期大学校 住居環境科
准教授 佐野 豊

千葉職業能力開発短期大学校は、日本建築構造技術者協会関東甲信越支部千葉（略称＝JSCA千葉、代表＝園部隆夫・SPC設計社長）と共同で溶融亜鉛めっき部材の接合面処理方法に関する研究を行い、このほどその成果を「溶融亜鉛めっき高力ボルト摩擦接合部の特性」としてまとめた。研究では、リン酸塩処理やショットブラストが一般的な溶融亜鉛めっき部材の接合摩擦面処理にサンドブラストを適用してその有効性を確認するとともに、実用的な処理方法の規定や仕様を提案している。この研究は、千葉職業能力開発短大とJSCA千葉が推進している「構造体接合部における構造の安全に関わる共同研究」の一環として行われたもの。

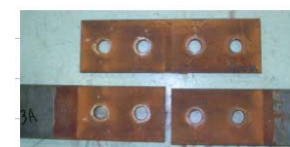
実験では、日本建築学会建築工事標準仕様書鉄骨工事編によるすべり試験用試験体計を用いて「粗さ試験」と「すべり試験」を行い、比較用として溶融亜鉛めっきを施さず、摩擦面に発錆処理をした供試体も用いた。

スプライスプレートを使用した粗さ試験では、サンドブラストの吹き付け時間が180秒を超えると、粗さの最低値である50μm Rzを超えることを解明。その後のすべり試験で、耐力、荷重一変位の関係、すべり性状等もサンドブラスト処理と発錆処理で大きな差がないことを確認した。

また、180秒仕様を定量化するためにサンドブラスト処理をパス数で規定した。この規定は、摩擦面全体を、応力に対して平行に全てサンドブラスト処理したのち、応力に対して直角方法に全てサンドブラスト処理を行う作業を1セットとし、これを6回繰り返す方法としている。

千葉職業能力開発短大住居環境科の佐野豊・能開准教授は、今回の研究・実験の結果から「溶融亜鉛めっき部材を高力ボルト接合する場合の摩擦面処理方法として、適当に処理されていることを条件にサンドブラスト処理が使用できることがいえる」との結論を導き出すとともに、サンドブラストを使用することで、ショットブラストやグリットブラストでは不可避な溶融亜鉛めっき部材への金属粉の付着や金属片の残余がなくなり、付着金属の発錆による美観の低下や錆水の滴下による2次発錆の防止などの効果が期待できるとしている。

(鋼構造ジャーナル 6月号より出展)



発錆-すべり試験終了時



180s-すべり試験終了時



すべり試験状況

環境にやさしい PCa・PCI工法

株式会社 建研はPCa・PC(プレキャスト・プレストレストコンクリート)により、環境に配慮した耐久性に優れた建築を提供します。



株式会社 建研 <http://www.kenken-pc.com> 立川市庁舎
 本社・東京支店 〒103-0012 東京都中央区日本橋堀留町1-4-8杉村ビル3F TEL: 03-5651-8232
 大阪支店 〒532-0011 大阪府淀川区西中島5-8-3新大阪サンアールビル3F TEL: 06-6308-8612
 水口工場 〒528-0061 滋賀県甲賀市水口町菅が丘1-6水口工業団地 TEL: 0748-62-2225
 営業所 札幌 011-532-4410 仙台 022-265-0151 千葉 047-460-0880
 名古屋 052-262-3801 滋賀 0748-62-2963 九州 092-451-4170

露出型弾性固定柱脚工法

(財)日本建築センター評定取得



1986年の販売開始以来、地震における

柱脚被害「0」

岡部株式会社 ベースバック事業部 <http://www.b-pack.net/>
 〒130-0002 東京都墨田区業平 3-14-4 ノブカワビル 2F TEL: 03-3624-5336